

春の江戸絵画まつり



へたがまの江戸絵画まつり

江戸絵画の文化を伝える



2019
前期:3月16日[土]—4月14日[日]

3.16 [土]—5.12 [日]
後期:4月16日[火]—5月12日[日]

Perverse Japanese Art:
From Zen Painting to Heta-uma



江戸のあまごい 本気なまごい



「へそまがりな感性」が生んだもうひとつの日本美術史。

常識を疑い、平凡さを超える力。

1 みどころ

日本では、古くから「見事な」造形作品が生み出されてきました。鎌倉時代の仏師、運慶がつくった完璧な均整美と躍動感をたたえた仏像、江戸時代の尾形光琳による芳醇な輝きを放つ屏風絵、歌川広重の叙情たっぷりの風景画など、「きれい」で「立派」な造形美が受け継がれてきたのです。

ところが、その一方で私たちの感性には「へそまがり」とも言える一面があります。決してきれいとは言えないものに魅力を感じたり、完璧ではない、不恰好なものや不完全なものになぜか惹かれたりすることが、誰にでもあるはず。本展は、そんな「へそまがりな感性」に注目しながら、日本の美術史を捉え直すという初めての試みです。

改めて眺めれば、日本の美術には「へそまがりな感性」が生み出してきた数々の絵画

日本初! 「へそまがり」で美術史を俯瞰する展覧会。

江戸時代の禅僧が描いた、愉快すぎる布袋さま。

なぜカルソも登場。



500年前に生まれたへそまがり、雪村。

中世の水墨画から現代のヘタウマ漫画まで、日本人の「へそまがりな感性」が生んだ絵画の数々を展望する初めての展覧会です。

- A 雪村周継 寒山図 栃木県立博物館蔵 (後期展示)
- B 白隠慧鶴 すたすた坊主図 (後期展示)
- C 萬鉄五郎 軽業師 萬鉄五郎記念美術館蔵 (前期・後期展示)
- D アンリ・ルソー フリュマンス・ピッシュの肖像 世田谷美術館蔵 (前期・後期展示)

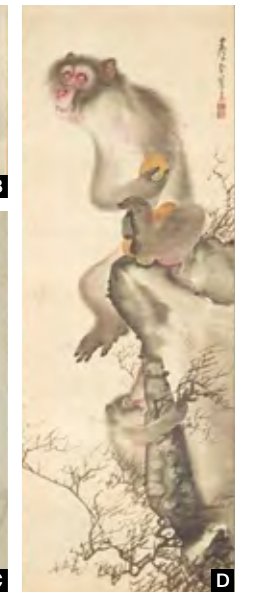
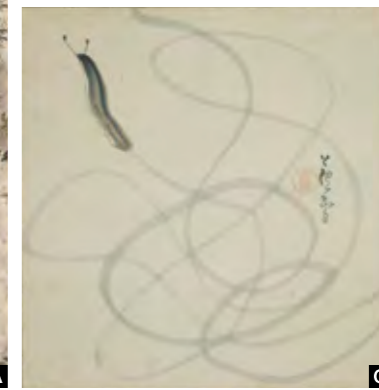
があります。寒山拾得図のように不可解さで引きつける禅画、技巧を否定した「ゆるい」味わいを信条とする俳画、あえて朴訥に描くことを率直な心の表現とする南画。あるいは江戸後期の禅僧、仙厓の絵は、立派なものを否定し、飛び越えることの痛快さを、見る者の心に与えてくれます。大正時代末期には三岸好太郎ら、フランスの画家ルソーに心酔し、「素朴」にのめり込む人々もいました。

このたびの展覧会では、中世の禅画から現代の「ヘタウマ」まで、日本の美術史上に点在する「へそまがりな感性」の所産を紹介します。「きれい」でも「立派」でもない——けれども、輝かしく、そして悩ましくも素晴らしい作品の数々からは、ありきたりの美術史観とは異なる、日本美術の新たな味わい方・楽しみ方が見えてくるはずです。

ゆるい造形、ゆるい構図。

「奇想の画家」として知られる蕭白、蘆雪、若冲、国芳もまた、「へそまがりな感性」の持ち主。新発見作品も含め、彼らの作品を多数紹介します。

- A 曾我蕭白 後醍醐天皇笠置潜逃図 (後期展示)
- B 長沢蘆雪 菊花子犬図 (前期・後期展示)
- C 長沢蘆雪 なめくじ図 (後期展示)
- D 長沢蘆雪 猿猴弄柿図 (後期展示)
- E 伊藤若冲 福祿寿図 (前期・後期展示)
- F 伊藤若冲 伏見人形図 (前期展示)
- G 伊藤若冲 鯉図 (前期・後期展示)
- H 歌川国芳 荷宝蔵壁のむだ書 (前期展示)



3 みどころ

「奇想の画家」の作品も多数登場!

高い描写力で描いた「完璧な落書き」。

2 みどころ

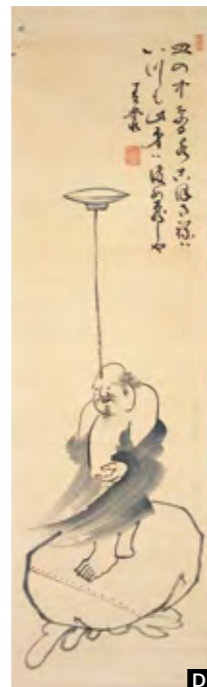
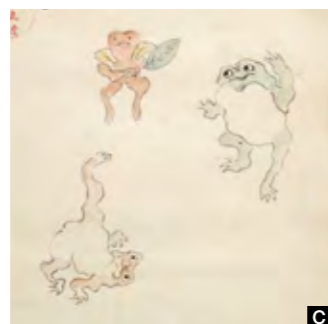
破壊力のある作品が勢ぞろい!

- A 岸駒 寒山拾得図 歌賀市立博物館蔵 (前期展示)
- B 小川芋銭 かっぱの幻 茨城県近代美術館蔵 (後期展示)
- C 遠藤日人 蛙の相撲図 仙台市博物館蔵 (前期展示)
- D 春葉紹珠 血回し布袋図 (前期・後期展示)
- E 仙厓義梵 竹虎図 (前期・後期展示)
- F 稲葉弘通 鶴図 (前期・後期展示)

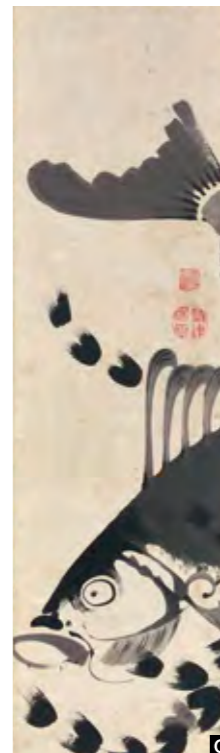
猫にしか見えない。



《鳥獣戯画》の末裔。



おでこの余白は自由にお使いください。



なぜここまで苦いのか!?



とほけた竜を大画面で。



子虎もいます。

みどころ④

ひとつは博多・幻住庵の《豊干禅師・寒山拾得図屏風》。仙厓が最晩年を過ごした古刹に受け継がれてきた屏風が上京します。もうひとつは京都・麟祥院の《雲竜図襖》。海北友雪のこの大作が東京で見られるまたとない機会です。

上：海北友雪 雲竜図襖 麟祥院蔵（後期展示）
左：仙厓義梵 豊干禅師・寒山拾得図屏風 幻住庵蔵（前期展示）

あの名刹の、
あの大作が、
東京へ。

太 平の世を迎えた江戸時代、お殿様や上級武士たちの間で、絵を描くことが流行しました。お殿様の絵は実にさまざまですが、身分ゆえの何にも縛られない大らかさと、あらゆる価値観を超越した雰囲気漂わせているのが魅力。まさに「へそまがり日本美術」にふさわしい作品群と言えるでしょう。右の絵は三代将軍・徳川家光の作。サングラスのような目、切り株の上にちょこんと佇むその姿——。まったく技巧にとらわれないその様は、現代を生きる私たちの笑いを誘いますが、この絵とともに伝えてきた重厚な箱からは、拝領した臣下、そして大事に受け継いできた人々の思いが伝わってくるようです。それはつまり、「身にある光栄！」。

上様の絵画



左：徳川家光 兎図（前期・後期展示）
下：二重箱の中箱には「大猷院様御筆 兎御絵」と書かれている。「大猷院」は家光の諡号。



〈関連イベント〉

- 展覧会講座 へそまがり日本美術 —「ゆるさ」から「苦さ」まで 金子信久(当館学芸員) / 3月30日[土] 14:00 (90分程度) 講座室 無料
- 20分スライドレクチャー / 毎週日曜日 14:00 講座室 無料
- 子供向けイベント「へそまがり探検隊！」 / 会期中随時 展覧会を見ながら「探検隊ワークシート」のクイズに挑戦。
観覧料が必要ですが、府中市内の小中学生は、「府中っこ学びのパスポート」で入場できます。年齢制限はありませんので、大人の方の参加もお待ちしております。

休館日：月曜日(4/29、5/6は開館)、5月7日[火] 開館時間：10:00～17:00(入場は16:30まで)

観覧料：一般700円(560円)、高校生・大学生350円(280円)、小・中学生150円(120円)

* ()内は20名以上の団体料金。* 未就学児および障害者手帳等をお持ちの方は無料。
* 常設展もご覧頂けます。* 府中市内の小中学生は「府中っこ学びのパスポート」で無料。

作品の展示替えを行います。* 全作品ではありませんが、大幅な展示替えを行います。

2度目は半額！ 観覧券をお求めいただくと、2度目は半額になる割引券が付いています(本展1回限り有効)。

主催：府中市美術館 * 他会場への巡回はありません。

〈交通案内〉

- ◆ 京王線東府中駅北口から / 徒歩17分 / ちゅうバス府中駅行き
「府中市美術館」①下車すぐ(8:05から毎時30分間隔で運行、100円)
 - ◆ 京王線府中駅からバス
・ ちゅうバス多磨町行き「府中市美術館」①下車すぐ
(府中駅バスターミナル7番乗り場から、8:00から毎時30分間隔で運行、100円)
 - ・ 京王バス武蔵小金井駅南口行き(一本木経由)「天神町二丁目」②下車すぐ
 - ・ 京王バス武蔵小金井駅南口行き(学園通り経由)「天神町幼稚園」③下車徒歩8分
 - ・ 京王バス国分寺駅南口行き(東八道路経由)「天神町幼稚園」③下車徒歩8分
 - ◆ JR中央線武蔵小金井駅南口からバス
・ 京王バス府中駅行き(一本木経由)「一本木」④下車すぐ
 - ・ 京王バス府中駅行き(学園通り経由)「天神町幼稚園」⑤下車徒歩8分
 - ◆ JR中央線国分寺駅南口からバス
・ 京王バス府中駅行き(東八道路経由)「天神町幼稚園」⑥下車徒歩8分
- お車の場合は、美術館近くの府中市臨時駐車場(無料、60台収容)をご利用ください。



府中市美術館
Fuchu Art Museum

東京都府中市浅間町1-3
(ハローダイヤル)
03(5777)8600
www.city.fuchu.tokyo.jp/art/